

税金という「ギフト」

沖縄県立那覇国際高等学校 二年 作田 ゆい

「教科書代ってこんなにかかるの？」

高校入学後、二度目の教科書販売。今年も心の声が漏れてしまった。すると、母は言った。「本当、感謝よね。中学まで毎年無料で支給してくれていたなんて。」

私も母と同じく感謝の気持ちでいっぱいになり、急に本棚から取り出したくなった。久しぶりに手にした中学の教科書はやはり全ページカラーで写真付き。誰が見てもわかりやすく、私達の理解を助けてくれるものだった。ふと隅に目をやると、そこには小さな文字で「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と印刷されていた。これを見てなんだが心が温かくなり、同時に、今まで遠い存在に感じていた税金について興味が湧いてきた。

調べてみると、税金は社会の会費で主に公共施設や公共サービスを提供するために様々な場面で使われており、子供から高齢者まで誰もがその恩恵を何らかの形で受けている。このことを知って、もし税が無かったらと考えるとゾッとした。税は私が思っていたよりずっと、社会を支え循環させていた。そしてそれを支える納税は国民の三大義務である。しかし、世の中には納得した上で納税している人がどれだけいるだろうか。正直、私自身も消費税が上がるたび、毎日の生活の中で払うたび、「高いな」「税金なんて無ければいいのに」と心の中で思ってしまう事があった。

だが、今は違う。税金が実際に何に使われ、どのように私達の暮らしと結びつき循環しているかを知り、その恩恵を感じることができた今は、税金に対して感謝の気持ちが芽生えた。誇りが生まれた。私は将来子供が生まれ「なんで税金を払うの？」と聞かれた際に、「納税は国民の義務だから」という一言では終わらせない大人になりたい。税は今と未来を守り、結びつけるもの。つまり税とは、現在を形作るものであり未来への贈り物、まさに「ギフト」だと感じる。今後、少子高齢化・感染症の脅威・台湾有事・災害などの課題により社会保障・安全保障等の税の役割と負担は増していく一方だろう。それに反比例するように、今と未来を担う貴重な納税者の数は減少していく。だからこそこれから、納税者が公共サービスの「受益」と「税負担」の在り方について関心を持ち、時に選択し、納得した上で納税するという主体的な姿勢で安定させることこそが求められると思う。今の私は高校生という立場での税といえばせいぜい消費税くらいしかないが、数年後本格的に納税者という立場になった時には、今と未来を結ぶ税金という「ギフト」を誇りを持って担い、恩返ししていきたい。また、未来の子供達、そのさらに先の世代の子供達が安心して学習し、生活できる持続可能な社会にするために税の意義を伝え、繋げてほしい。いつもなら、少し憂鬱な“プラス税”。明日からはきっと小さな喜びを与えてくれる。